

4. 新聞等に掲載された活動

○解剖学第一

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
森 望・教授	脳の発達、心の発達の分子背景	長崎新聞	2005年 6月2日	長崎大学公開講座「子供の心を支えるために」シリーズの第3回講演内容の解説

○解剖学第二

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
分部哲秋・講師	長崎新聞・佐賀新聞合同企画「県境を越えて—育むひと・モノ・こころ—」第1回 長崎大学の人骨分析	長崎新聞 佐賀新聞	2005年 1月25日	長崎大学は佐賀、長崎両県の人骨が収集され比較できる強みがあることや、これまでの研究で九州の弥生人が北部九州・山口(高身長、面長・平坦な顔)、西北九州(彫りが深い顔で縄文人によく似る)、南九州(縄文人に似るが頭が丸い)の三タイプに分類されていることなどが紹介された。

○生理学第二

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
篠原一之・教授	赤ちゃん翻訳機「ギャー」でも通じる?	西日本新聞	2005年 1月6日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	プライマリケアのための新しい睡眠障害診療	Medical Tribune	2005年 1月6日	睡眠障害とその治療法について報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの気持ち分かる子育てママの悩み解消! 表情・温度のなどで感情読み取る機械	読売新聞	2005年 1月19日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究のうち、顔表面温度変化について報告した。
篠原一之・教授	泣き声で分かる 赤ちゃんの気持ち	NBC 報道センターイブニングニュース	2005年 2月15日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	ことば使わない母子の意思伝達方法研究	NHK もってこい長崎6	2005年 3月23日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	長崎大 母子関係を科学的に研究	長崎文化放送(NCC)スーパーJチャンネルながさき	2005年 3月23日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	国の外郭団体プログラム"赤ちゃん翻訳機"を採択	長崎国際テレビ(NIB)ニュースダッシュ&天気	2005年 3月24日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究が科学振興機構プログラムに採択されたことを報告した。

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
篠原一之・教授	胎児、乳児の感情機械で読み取る・科学振興機構プログラムに採択・長崎大研究 育児支援に役立て	長崎新聞	2005年 3月24日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究が科学振興機構プログラムに採択されたことを報告した。
篠原一之・教授	言葉以外の手段さぐる母と胎児らの意思疎通長崎大、3年かけ保育現場に生かす	日本経済新聞	2005年 3月24日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究が科学振興機構プログラムに採択されたことを報告した。
篠原一之・教授	長崎、育児支援へ新組織母子間の「対話法」を研究	西日本新聞	2005年 3月25日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの心「翻訳機」長崎大で開発着手育児の味方に	北陸中日新聞	2005年 4月7日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの感情読みとれ長崎大技術開発に着手	北國新聞	2005年 4月7日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	言葉話せない赤ちゃんの感情 表情、声から読み取れ 長崎大技術の開発に着手	秋田魁新	2005年 4月7日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの“表情翻訳機”長崎大が開発着手交流能力育てる	高知新聞	2005年 4月7日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	Baby “expression translator” in works	Japan Times	2005年 4月8日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの感情「翻訳」長崎大が技術開発に着手	南日本新聞	2005年 4月8日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの表情「翻訳」胎児への解明も目指す長崎大技術開発へ	新潟日報新聞	2005年 4月8日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの感情 表情や声で解読 長崎大研究グループ「翻訳機」開発に着手	山梨日日新聞	2005年 4月8日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの感情「翻訳」長崎大 技術開発へ	山陰中央新報社	2005年 4月8日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究に着手したことを報告した。
篠原一之・教授	イランイランという植物の成分が不定愁訴を鎮める効果があることを発見	朝日新聞 life & science	2005年 4月11日	イランイランの主成分であるβカリオフィレンがマタニティブルースの症状や月経前緊張症を軽減する作用を報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの感情を読み取れ	KTNテレビ長崎 できたてGopan	2005年 5月4日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究について報告した。

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
篠原一之・教授	Goo-goo gadget claims to be baby-lingual	THE JAPAN TIMES	2005年 5月11日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究について報告した。
篠原一之・教授	Researchers toy with translator for baby babble	HK Standard (香港のStandard紙)	2005年 5月11日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究について報告した。
篠原一之・教授	佐世保事件から1年 育児めぐる新研究	NHK もってこい長崎6	2005年 5月31日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究について報告した。
篠原一之・教授	アロマセラピーに脚光 陣痛緩和、イライラ解消も即効性も高く	西日本新聞	2005年 6月27日	イランイランの主成分であるβカリオフィレンが女性のイライラを軽減する作用を報告した。
篠原一之・教授	泣き声や表情から赤ちゃんの感情を読み取る装置 開発へ!その目的は?	文化放送 (ラジオ局)	2005年 6月29日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究を育児支援につなげたい意向を報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの泣き声「翻訳機」悲しみ・怒り・甘え・眠気 感情を80%判別 長崎大発VB、開発へ	日本経済新聞	2005年 7月2日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究や、表情から感情を読み取るシステム展開について報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃん翻訳機が登場・「なぜ泣くの…」虐待事件に歯止め・喜怒哀楽を測定	産業経済新聞	2005年 7月5日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究について報告した。
篠原一之・教授	赤ちゃんの教えてくれること	北ドイツ放送 (NDR) Kulturmagazin (文化教養番組)	2005年 7月14日	母子間コミュニケーションを支援する、赤ちゃんの感情翻訳機の研究について報告した。
篠原一之・教授	月経前緊張症と香り	西日本新聞	2005年 8月14日	月経前緊張症やマタニティブルーの症状を軽減する香りを開発したことを報告した。
篠原一之・教授	大学等発ベンチャー創出 本年度5事業採択(県産業振興財団)	長崎新聞	2005年 9月3日	乳幼児の表情や音声で感情を読み取る技術を用い、母子間コミュニケーション支援システムを開発する研究に「大学等発ベンチャー創出事業」が採択されたことを報告した。
篠原一之・教授	乳幼児期のふれあい大切 抱っこ、母乳の効用も 医師、教授ら研究成果は発表	西日本新聞	2005年 10月16日	母子間コミュニケーション研究から、育児支援の会を発足し、長崎大で講演会を開催したことを報告した。

○薬理学第一

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
丹羽正美・教授	脳に入る医薬検査迅速に	日本経済新聞	2005年 3月17日	大学発ベンチャーの立ち上げと創薬支援ツールの社会への提供
丹羽正美・教授	大学発VB、長崎で続々結実、県が多額の創業資金援助	日本経済新聞	2005年 4月18日	大学発ベンチャーの立ち上げと長崎県の経済状況の改善
丹羽正美・教授	長崎大発ベンチャーのファーマコセル 血液脳関門のモデル化キットを年内発売へ	日経バイオテク ニュース	2005年 5月19日	創薬支援ツールとしての血液脳関門のモデル化キットの社会への提供

○感染分子

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
西田教行・助教授	弱毒プリオン研究で初証明 強毒プリオン感染を抑制	長崎新聞	2005年 10月21日	プリオンの感染機構を利用した治療法開発について公表した。
坂口末廣・助教授 石橋大輔・助手	プリオン病の発症遅れる 異種動物の正常型接種で	共同通信社	2005年 11月22日	プリオン病のワクチン開発への可能性について公表した。

○内科学第一

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
江口勝美・教授	関節リウマチ-抗サイトカイン療法の位置付け	Medical Academy NEWS	2005年 1月11日	関節リウマチの治療は抗サイトカイン療法が導入され、大変革の時を迎えている。抗サイトカイン療法の関節リウマチ治療体系における位置付けについて記述した。
江口勝美・教授	生物学的製剤導入から1年、リウマチ治療の最新動向を検証する～インフリキシマブ市販後調査最新集計より	REMEDY	2005年2月	TNF阻害薬が導入され1年を経過した。市販後調査結果を基に、日本でのTNF阻害薬をより有効かつ安全に使用するための方策について意見交換した。
江口勝美・教授	関節リウマチは治る病気になってきました	医学情報	2005年4月 (毎週火曜日)	長崎県保険医協力の健康テレホンサービスを通して、患者さまを含め国民へ関節リウマチは治る病気になってきたことを広報した。
江口勝美・教授	ヒポクラテスの誓いと医療経済	財団法人アレルギー協会九州支部九州協会ニュース	2005年6月	生物学的製剤を含め、高度な先進医療を実施することは患者さまへ大きな福音を与えるが、医療費が益々高騰していくことが予想される。医師は、医学的最適性対経済的最適性の狭間に立って診療を行っている。
江口勝美・教授	エタネルセプトQ&A	エタネルセプトQ&A	2005年7月	TNF阻害薬の1つのエタネルセプトの使用方法をQ&A方式で専門医師に広報した。
江口勝美・教授	病院長就任にともなう挨拶	長崎医学同窓会誌「朋百」	2005年 7月20日	長崎大学医学部歯学部附属病院長に平成17年4月1日付で就任した。就任の挨拶と抱負について述べた。
調 漸・教授	医学教育支援	長崎新聞	2005年 9月14日	地域医療
調 漸・教授	医療過疎化地で総合的な地域医療を学ぶ育成プログラム	長崎新聞	2005年 9月15日	自治体と連携し、保健福祉分野にも通じた総合医を育てる試み。
調 漸・教授	県北地区で若手医師育成	長崎新聞朝日新聞毎日新聞	2005年 11月26日	地域医療の再生を目指す、長崎大学が本部設置。
調 漸・教授	全国の若手医師を育成	長崎新聞西日本新聞	2005年 12月20日	「臨床教育拠点、北松中央病院・平戸市民病院」が発足、地域貢献、総合医育成狙う。
本村政勝・講師	抗MuSK抗体陽性MGの治療はステロイド薬とタクロリムスによる免疫抑制療法を基本に	Medical Tribune	2005年 8月18日	本邦における抗MuSK抗体陽性MGの臨床像とその治療の現状を日本神経学会(2005年5月、鹿児島)中に開催された第4回重症筋無力症フォーラムにおいて講演した。また、神経筋接合部の病理結果から、この疾患の病態機序を「抗MuSK抗体はagrin-MuSK間のシグナル伝達機構を抑制している可能性がある」と推測した。
山崎浩則・講師	糖尿病の薬物療法Q&A	西日本新聞	2005年 10月25日	インスリン療法の必要性について解説した。

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
江島英理・助手	「女性の健康シリーズホルモンバランス」甲状腺ホルモンと女性の病気	ながさき・ごくらく・Magazine ととつて	2005年 5月8日	女性に多いと言われる甲状腺の病気について、一般向けに解説。

○内科学第二

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
河野 茂・教授	深在性真菌症治療の未来を開く抗真菌薬ボリコナゾール	CD-ROM	2005年 3月	新規抗真菌薬ボリコナゾールの特徴について解説した
河野 茂・教授	AmBisome 深在性真菌症治療の新時代	ビデオ	2005年 4月	新規抗真菌薬AmBisomeの特徴について解説した
宮崎正信・助教授	ドクターに聞く「無症候性血尿とは」	西日本新聞	2005年 4月3日	血尿と腎炎との関係、血尿の意義について解説した。
河野 茂・教授	咳嗽に関するガイドラインと呼吸器感染症	ラジオBSラジオDVD	2005年 11月4日	咳嗽のガイドラインの概要と呼吸器感染症に関して解説した
河野 茂・教授	できたてGoPan せいかつ辞典 頭痛	KTN	2005年 1月18日	頭痛の対処法について解説した
河野 茂・教授	できたてGoPan せいかつ辞典 冬場の下痢	KTN	2005年 2月15日	冬季の下痢の原因、治療について解説した
河野 茂・教授	できたてGoPan せいかつ辞典 花粉症	KTN	2005年 3月1日	花粉症の対処法について解説した
河野 茂・教授	できたてGoPan GoPan相談室 ドロドロ血(高脂血症)	KTN	2005年 4月12日	高脂血症の治療について解説した
河野 茂・教授	できたてGoPan GoPan相談室 胃潰瘍・十二指腸潰瘍	KTN	2005年 5月10日	胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因、治療法について解説した
河野 茂・教授	できたてGoPan GoPan相談室 健康診断・人間ドック	KTN	2005年 7月5日	定期健診の意義について解説した
河野 茂・教授	フジテレビスーパーニューススーパー 特報呼吸器アスペルギルス症	KTN	2005年 7月21日	肺アスペルギルス症に関して解説した
河野 茂・教授	できたてGoPan GoPan相談室 夏バテ解消法	KTN	2005年 9月6日	夏期の健康管理について概説した
河野 茂・教授	できたてGoPan GoPan相談室 貧血	KTN	2005年 10月4日	貧血の原因、治療について解説した
河野 茂・教授	できたてGoPan GoPan相談室 インフルエンザ予防法	KTN	2005年 12月6日	日常的な感染予防法について概説した
早田 宏・助教授	NBC報道センター 胸膜中皮腫	NBC	2005年 7月15日	石綿関連疾患について説明した
早田 宏・助教授	KTN週刊健康マガジン 肺癌の早期発見	KTN	2005年 12月2日	肺癌の早期発見法について説明した

○内科学第三

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
矢野捷介・教授	健康インタビュー「循環器疾患の現状と予防」	長崎新聞	2005年 1月15日	循環器疾患のなかで生活習慣と関係のある動脈硬化循環器疾患についてその現状を概説し、その予防について、生活習慣の是正を中心に概説した。
矢野捷介・教授	脳梗塞を起こすあなどれない不整脈・心房細動	朝日新聞	2005年 1月15日 2005年 4月14日	人口高齢化に伴って増加している不整脈の心房細動について、その概念、原因や臨床的問題点、とくに合併症としての脳梗塞発症の危険性について述べ、その治療法について概説した。
小宮憲洋・助手	頻脈性不整脈に対する非薬物療法	西日本新聞	2005年 5月28日	頻脈性不整脈に対する治療について紹介・公表した。

○小児科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
森内浩幸・教授	母乳成分に抗HIV作用雪印乳業と長崎大学感染抑制に効果	日刊工業新聞	2005年 6月30日	エイズのウイルスを抑える物質を母乳・牛乳中に見出した。
森内浩幸・教授	牛乳の成分にエイズ防止効果	日本経済新聞	2005年 7月1日	エイズのウイルスを抑える物質を母乳・牛乳中に見出した。

○外科学第一

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	脳死肺移植 長崎大など4施設追加	長崎新聞	2005年 6月1日	移植関係学会合同委員会は、脳死肺移植の実施施設として新たに独協医大、千葉大、福岡大、長崎大を選んだ。従来の東北大、京都大、大阪大、岡山大と合わせて8施設。

○外科学第二

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
兼松隆之・教授	暮らしと医	長崎新聞	連載	暮らしと健康について身近なことから、最先端、世界の問題にいたるまで幅広くとりあげ連載
前田茂人・講師	日本人外科医による国際協力	ウスカメノゴルス クテレビ放送	2005年 5月13-21日	カザフスタン、ウスカメノゴルスにて甲状腺癌、乳癌に対する講演。また、甲状腺癌手術を行った。
前田茂人・講師	番組名「出会えて、よかった」	KTNテレビ 長崎新聞	2005年 5月30日	乳がんおよび癌再発患者に対する医療従事者の関わり
前田茂人・講師	長崎ピンクリボンフェスティバル シンポジウム開催	KTNテレビ	2005年 11月4日	乳がんの啓蒙活動
永田康浩・講師	キッズ外科体験セミナー	KTNテレビ	2005年 7月16日	長崎大学附属中学校の生徒を対象に外科体験セミナーを開催。

○皮膚科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
佐藤伸一・教授	日本リウマチ学会賞など、6つの賞の受賞者決まる アボットジャパン・リウマチ性疾患臨床医学賞 長崎大学皮膚病態学教授の佐藤伸一氏 研究テーマ：全身性強皮症におけるB細胞をターゲットとした新規治療法の開発	MedWave (日経BP)	2005年 4月20日	強皮症に対するB細胞をターゲットとした新規治療法を開発した
佐藤伸一・教授	『強皮症』B細胞に着目、新治療法に道 佐藤伸一・長崎大教授が開発	Chunichi Web Press	2005年 4月26日	同上
佐藤伸一・教授	皮膚硬くなる難病「強皮症」B細胞に着目新治療法に道 佐藤伸一・長崎大教授が開発	東京新聞	2005年 4月26日	同上
佐藤伸一・教授	第49回日本リウマチ学会総会・学術集会において平成17年度日本リウマチ財団各賞の受賞者が発表される：「アボットジャパン・リウマチ性疾患臨床医学賞」(第16回)	日本リウマチ財団ニュース	2005年5月	同上
佐藤伸一・教授	長崎大大学院の佐藤伸一教授が受賞～アボットジャパン・リウマチ性疾患臨床医学賞～	Medical Tribune	2005年 5月26日	同上
佐藤伸一・教授	あなたのまちの専門医シリーズ：紫外線のはなし	朝日新聞	2005年 7月21日	紫外線が皮膚に及ぼす影響について易しく解説
佐藤伸一・教授	健康：膠原病とは－種類と症状 2つ以上の臓器に障害、自己免疫が原因、皮膚変色	長崎新聞	2005年 10月17日	今年の「ひふの日」のテーマとなっている膠原病について解説
佐藤伸一・教授	金属とアレルギー	KBCアレルギー 談話室	2005年 5月29日	金属によるアレルギーについて易しく解説
佐藤伸一・教授	GOPAN相談室：紫外線について	KTNできたて GOPAN	2005年 8月2日	紫外線が皮膚に及ぼす影響について易しく解説
佐藤伸一・教授	GOPAN相談室：じんましん	KTNできたて GOPAN	2005年 11月8日	じんましんについて易しく解説

○泌尿器科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
錦戸雅春・助手	腎臓移植について	KTNテレビ	2005年 4月22日	週間健康マガジン
酒井英樹・講師	個別化を目指した早期前立腺癌治療	Medical Tribune	2005年 5月5日	内分泌療法による患者の利益と不利益
酒井英樹・講師	前立腺癌のホルモン療法	BSラジオ NIKKEI	2005年 12月15日	医学特別番組 〈癌治療の最前線〉

○耳鼻咽喉科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
高崎賢治・講師	赤ちゃんの聞こえと言葉	長崎新聞	2005年 8月1日	赤ちゃんの聞こえと言葉の発達について解説した。
高崎賢治・講師	長崎県における花粉症とその治療	Medical Tribune	2005年 2月17日	長崎県における花粉症とその治療について解説した。

○放射線医学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
磯本一郎・助教授	出会えて、よかった。乳がん向き合った1年	KTNテレビ長崎	2005年 5月30日	乳がん
伊東昌子・助教授	動き出したアンチエイジング医療	サイエンスZERO (NHK教育テレビ)	2005年 11月26日	骨粗鬆症

○産科婦人科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
三浦清徳・助手	妊娠中・授乳中の感冒とインフルエンザ	長崎新聞 とととて	平成17年 1月16日	流行しているインフルエンザや感冒について、特に妊婦および褥婦においてわかりやすく解説した。
北島道夫・助手	女性のライフスタイルと不妊	長崎新聞 とととて	平成17年 1月9日	不妊症についてわかりやすく解説した。

○形成外科学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
秋田定伯・助手	創傷治癒・難治性潰瘍	創傷治癒センター (web site)	Webサイト 編集委員	創傷治癒に関する世界最大学会を日本最大のwebサイトの編集員
秋田定伯・助手	創傷治癒・難治性潰瘍	創傷治癒センター (web site)	2005年12月 5日、6日 第35回日本 創傷治癒学 会学会報告	創傷治癒の新技术開拓
秋田定伯・助手	創傷治癒・難治性潰瘍	創傷治癒センター (web site)	2005年 12月7日 コンバテック創傷セミナー報告	創傷治癒センター構想の推進

○総合診療学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
竹島史直・助教授	心身症?	テレビ長崎	2005年 10月7日	心身症について、県民に対してわかりやすく説明

○医療情報学

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
松本武浩・助教授	離島と本土との医療連携 図る「あじさいネット」が 稼働-長崎	時事IT時報 時事通信社 218:9	2005年 3月7日	あじさいネットワークの離島医療に対する効果を公表した。
松本武浩・助教授	「診療情報 病診が共有 し質向上へ」	Japan Medicine じほう新聞	2005年 7月15日	あじさいネットワークの価値を公表した。

○病態分子解析研究分野(原研病理)

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
関根一郎・教授	被爆60年で記念講演会	長崎新聞	2005年 6月30日	原爆投下当時の参上や医療・救護活動の様子などの記念講演。
関根一郎・教授	重複がん	TBSイブニング ニュース	2005年 8月3日	原爆被爆者に重複がんが多いことについて。
関根一郎・教授	近距離被爆重複がん発生 率2倍	朝日新聞	2005年 8月6日	原爆被爆者の間で、複数の臓器に癌が生じる「重複がん」の発生率が上昇し、被爆時の爆心地からの距離が近いほど発生率が高くなっている。

○分子医療部門 分子診断研究分野 (原研細胞)

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
山下俊一・教授	WHO放射線専門官に就任「被爆地の声 直接世界へ」	西日本新聞	2005年 1月14日	国際放射線保健
山下俊一・教授	Nagasaki man heads WHO radiation group	THE NEW YORK TIMES	2005年 1月17日	国際放射線保健
	被ばく医療など報告 文科省COEプログラム 長崎大でシンポ	長崎新聞	2005年 3月8日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	「原爆放射線の晩発性影響」をテーマに9月、ジュネーブで国際会議 長崎大とWHO共催	長崎新聞	2005年 5月5日	国際ヒバクシャ医療
	NASHIMがロシア語の医学書「甲状腺疾患」を出版	長崎新聞	2005年 5月18日	国際ヒバクシャ医療
	IAEA、WHOの多国間演習 原発事故時に国際支援ネット ヒバクシャ医療センター 「蓄積基に貢献」	長崎新聞	2005年 5月20日	国際ヒバクシャ医療
	ナイチンゲール記章を受章 久松シソノさん	毎日新聞	2005年 6月4日	平和活動
	永井隆平和記念賞 2人輝く	読売新聞	2005年 6月14日	国際ヒバクシャ医療
	永井賞に2氏	毎日新聞	2005年 6月14日	国際ヒバクシャ医療
	永井隆平和記念・長崎賞 市丸、横路両氏に決定	長崎新聞	2005年 6月14日	国際ヒバクシャ医療
	永井隆平和記念賞 市丸氏と横路氏に	朝日新聞	2005年 6月14日	国際ヒバクシャ医療
	在韓被爆者健康相談へ	長崎新聞	2005年 6月23日	国際ヒバクシャ医療
	被爆直後の救護活動 克明に 自筆原稿、長崎大へ寄贈	長崎新聞	2005年 6月24日	ヒバクシャ医療
岩永正子・助手 その他	在韓被爆者健康相談—在外被爆者保健医療助成事業—	西日本新聞	2005年 6月27日	原爆後障害医療：診察様子紹介
山下俊一・教授	WHOからネット講義 「世界が被ばく医療に期待」	長崎新聞	2005年 7月12日	国際放射線保健
山下俊一・教授	「被爆地から国際貢献を」 ジュネーブからTV講義	西日本新聞	2005年 7月12日	国際放射線保健
山下俊一・教授	ネット使い特別講義 長 大教授WHOの役割など 紹介	読売新聞	2005年 7月12日	国際放射線保健

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	命とは亡き先生へ今も問い 久松シノノさん	朝日新聞	2005年 7月19日	平和活動学習
	記者の目 伝えたい被爆者の思い	長崎新聞	2005年 7月22日	ヒバクシャ医療
	永井隆平和記念賞受賞者2人の声	西日本新聞	2005年 7月26日	国際ヒバクシャ医療
	永井隆平和記念・長崎賞市丸・横路氏に賞状	長崎新聞	2005年 7月26日	国際ヒバクシャ医療
	ロシアなど4カ国 研修医師団が来県	毎日新聞	2005年 7月27日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ原発事故被災地の医師ら6人 長崎の被ばく医療を研修	西日本新聞	2005年 7月27日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ周辺国医療研修団 知事を表敬	長崎新聞	2005年 7月27日	国際ヒバクシャ医療
	ロシアの医師ら研修 放射線被ばく治療など	読売新聞	2005年 7月31日	国際ヒバクシャ医療
	「長崎原爆の記録」英語版を出版 長崎・ヒバクシャ医療国際協力会	毎日新聞	2005年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	大村海軍病院での治療記録 50年後に英語版出版	西日本新聞	2005年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	英語版「長崎原爆の記録」出版	長崎新聞	2005年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	イラクの子らへ 被爆地長崎の支え国際世論動かす一歩に	西日本新聞	2005年 8月6日	国際放射線保健
	有明町の住民有志ロシア医師と懇談	熊本日日新聞	2005年 8月13日	国際ヒバクシャ医療
	「長崎原爆の記録」英訳 国連本部、WHOなど配布へ	読売新聞	2005年 8月18日	国際ヒバクシャ医療
	WHOと長崎大が共催 被爆治療で初セミナー	長崎新聞	2005年 9月10日	国際放射線保健
	被爆医療テーマにWHOでセミナー 「長崎の積み重ね 世界へ」	長崎新聞	2005年 9月10日	国際放射線保健
	被爆体験 世界で生かせ 長崎大、WHOと共催セミナー	西日本新聞	2005年 9月10日	国際放射線保健
	原爆健康被害国際セミナー 長崎大とWHO ジュネーブで開催	読売新聞	2005年 9月10日	国際放射線保健
	60年の被爆治療 検証 WHOと長崎大	日本経済新聞	2005年 9月11日	国際放射線保健

氏名・職	記 事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	被爆者の治療記録英語で紹介 核兵器の恐怖世界へ	朝日新聞	2005年 9月20日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシの学生と交流 TV電話で長崎市民ら被ばく医療に理解を	西日本新聞	2005年 9月24日	国際ヒバクシャ医療
	原発事故の現状聴く ベラルーシの大学と長崎結ぶ NASHIMが交流会	長崎新聞	2005年 9月24日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノ事故被害の医学生と交流	朝日新聞	2005年 9月24日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシから届く声 被ばく医学生とネット交流	読売新聞	2005年 9月24日	国際ヒバクシャ医療
	平和の思い国を越え ネットテレビで国際交流	毎日新聞	2005年 9月27日	国際ヒバクシャ医療
	ジュネーブから“平和を” WHO・長崎大からのメッセージ	長崎新聞	2005年 9月28日	国際放射線保健
	「長崎とロシア」ヒバクシャ医療 信頼と協力関係築く	長崎新聞	2005年 10月10日	国際ヒバクシャ医療
	韓国人医師2人が被爆者医療を学ぶ	西日本新聞	2005年 10月21日	国際ヒバクシャ医療

○分子医療部門 分子診断研究分野 (原研内科)

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
朝長万左男・教授	被爆医療を学ぶイラク人医師：講義様子紹介	NHK：もってこい長崎5・おはよう日本	2005年 4月20日 2005年 4月22日	原爆後障害医療：イラク人医師2人に被爆医療について講義
朝長万左男・教授	チェルノブイリ原発事故-1986年4月26日-事故防止体制について	長崎新聞	2005年 4月24日	原発事故防止体制についてコメントした
朝長万左男・教授	被爆60周年記念事業アニメ『NAGASAKI 1945～アンゼラスの鐘』について	RNC西日本放送 ラジオ放送部 情報てんこもり ラジオなんでも タイム	2005年 4月26日 13:00-16:15 放送	被爆60年を迎えて、作成されたアニメの紹介
朝長万左男・教授	国際MDSシンポジウムについてシンポジウム紹介、被爆者発生率紹介	長崎新聞	2005年 5月13日	日本初開催の国際骨髄異形成症候群シンポジウムについて
朝長万左男・教授 その他	平和宣言文 第1回起草委員会「被爆体験の継承を」	読売新聞	2005年 5月29日	原爆後障害医療：平和宣言文の起草に携わる
朝長万左男・教授	第46回 原爆後障害研究会-広島開催-	長崎新聞	2005年 6月6日	原爆後障害医療：「白血病」の解明必要を講演
塚崎邦弘・助教授 その他	在韓被爆者健康相談-在外被爆者保健医療助成事業-	NHK 長崎放送局	2005年 6月27日 20:50～ 放送	原爆後障害医療：診察様子紹介
塚崎邦弘・助教授 その他	在韓被爆者健康相談-在外被爆者保健医療助成事業-	長崎新聞	2005年 6月28日	原爆後障害医療：診察様子紹介
朝長万左男・教授	バグウォッシュ会議	長崎新聞	2005年 7月28日	原爆後障害医療：「60年持続する原爆の人体影響」について講演
朝長万左男・教授 塚崎邦弘・助教授	イラクの子らへ-被爆地長崎の支え-60年間の蓄積を伝える	西日本新聞	2005年 8月3日	原爆後障害医療：イラク医師の長大病院研修報告
朝長万左男・教授	イラク人医師被爆地で研修	NBC：長崎放送 「報道センター NBC」	2005年 8月4日 18:16～ 放送	原爆後障害医療：研修様子の紹介
朝長万左男・教授	戦後60年-広島・長崎被爆者-高い独居率	読売新聞	2005年 8月7日	原爆後障害医療：死亡要因について
朝長万左男・教授 その他	思いをつなげて～被爆医師から未来へ～「ある医師を主人公にしたアニメ製作」	KTN：テレビ 長崎被爆60年 特別番組	2005年 8月8日 19:00-19:54 放送	原爆後障害医療：被爆60年を迎えて、作成されたアニメの紹介
朝長万左男・教授	平和祈念式典中継-被爆60年を語る-	NHK	2005年 8月9日 10:40-11:40 放送	原爆後障害医療：式典中継のコメントとして参加

氏名・職	記 事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
朝長万左男・教授	くすぶり型白血病-被爆60年 なお発症-長崎で24年間に162人	毎日新聞	2005年 8月10日 (夕刊) 2005年 8月11日	原爆後障害医療：被爆後の死亡要因の推移について
朝長万左男・教授 その他	被爆地の国際貢献論議-HICARE企画広島・長崎の専門家ら	中国新聞	2005年 9月16日	原爆後障害医療：被爆後の死亡要因の推移について
朝長万左男・教授 その他	被曝者医療の現状など報告	朝日新聞	2005年 9月17日	原爆後障害医療：被爆後の死亡要因の推移について
朝長万左男・教授 その他	平和の思い国を越え ベラルーシーの医大生と長崎の若者 ネットテレビで国際交流	毎日新聞	2005年 9月27日	原爆後障害医療：ベラルーシーの医大生と長崎の若者 ネットテレビで国際交流
朝長万左男・教授	NAGASAKI・2005 今も続く原爆後障害	西陵高校新聞	2005年 9月30日	原爆後障害医療：被爆60年を迎えて、作成されたアニメの紹介
朝長万左男・教授 その他	核廃絶への方向探る	長崎新聞 NHK(長崎) 20:50 ニュース	2005年 11月20日	原爆後障害医療：来年10月の地球市民集会 プレ集会

○国際放射線保健部門 (原研国際)

氏名・職	記 事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	NASHIMがロシア語の医学書「甲状腺疾患」を出版	長崎新聞	2005年 5月18日	国際ヒバクシャ医療
	永井隆平和記念賞 2人輝く	読売新聞	2005年 6月14日	国際ヒバクシャ医療
	永井賞に2氏	毎日新聞	2005年 6月14日	国際ヒバクシャ医療
	永井隆平和記念・長崎賞市丸・横路漁師に決定	長崎新聞	2005年 6月14日	国際ヒバクシャ医療
	永井隆平和記念賞市丸氏と横路氏に	朝日新聞	2005年 6月14日	国際ヒバクシャ医療
	被爆直後の救護活動 克明に 自筆原稿、長崎大へ寄贈	長崎新聞	2005年 6月24日	ヒバクシャ医療
	永井隆平和記念賞受賞者2人の声	西日本新聞	2005年 6月24日	国際ヒバクシャ医療
	永井隆平和記念・長崎賞市丸・横路氏に賞状	長崎新聞	2005年 7月26日	国際ヒバクシャ医療
	ロシアなど4カ国 研修医師団が来県	毎日新聞	2005年 7月27日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ原発事故被災地の医師ら6人 長崎の被ばく医療を研修	西日本新聞	2005年 7月27日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ周辺国医療研修団 知事を表敬	長崎新聞	2005年 7月27日	国際ヒバクシャ医療

氏名・職	記 事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	ロシアの医師ら研修 放射線被ばく治療など	読売新聞	2005年 7月31日	国際ヒバクシャ医療
	「長崎原爆の記録」英語版を出版 長崎・ヒバクシャ医療国際協力会	毎日新聞	2005年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	大村海軍病院での治療記録 50年後に英語版出版	西日本新聞	2005年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	英語版「長崎原爆の記録」出版	長崎新聞	2005年 8月6日	国際ヒバクシャ医療
	有明町の住民有志ロシア医師と懇談	熊本日日新聞	2005年 8月13日	国際ヒバクシャ医療
	「長崎原爆の記録」英訳 国連本部、WHOなど配布へ	読売新聞	2005年 8月18日	国際ヒバクシャ医療
	被爆者の治療記録英語で紹介 核兵器の恐怖世界へ	朝日新聞	2005年 9月20日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシの学生と交流 TV電話で長崎市民ら被ばく医療に理解を	西日本新聞	2005年 9月24日	国際ヒバクシャ医療
	原発事故の現状聴く ベラルーシの大学と長崎結ぶ NASHIMが交流会	長崎新聞	2005年 9月24日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノ事故被害の医学生と交流	朝日新聞	2005年 9月24日	国際ヒバクシャ医療
	ベラルーシから届く声 被ばく医学生とネット交流	読売新聞	2005年 9月24日	国際ヒバクシャ医療
	平和の思い国を越え ネットテレビで国際交流	毎日新聞	2005年 9月27日	国際ヒバクシャ医療

○原研情報

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
三根真理子・助教 授	被爆直後の救護活動の自筆原稿	長崎新聞	2005年 6月24日	原爆投下直後の救護活動「長崎原爆の記録」を「長崎医科大学原爆被災写真・資料展」で一般公開する。
三根真理子・助教 授	寄せ書きの日章旗が原爆展へ	西日本新聞	2005年 7月16日	原爆で死亡した級友たちの寄せ書きの日章旗が医学部に寄贈され、医学部原爆展で初めて公開される。
三根真理子・助教 授	「原爆被災写真・資料展」	長崎新聞	2005年 7月20日	長崎医科大学の被爆直後の写真や当時の診療記録など資料を集めた「原爆被災写真・資料展」が始まる。

○原研試料

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
中島正洋・講師	近距離被爆ほど「重複がん」の発生率増加	NBC 報道センター NBC	2005年 8月5日	原爆被爆者の間で「重複がん」の発生率が上昇し、被爆時の爆心地からの距離が近いほど、その発生率が高くなっていることが分かった。
中島正洋・講師	重複がん：近距離被爆ほど発生率増加	毎日新聞	2005年 8月6日	近距離被爆ほど「重複がん」の発生率が増加していることが分かった。被爆と重複がんの相関関係が明らかになったのは初めて。

○血液浄化療法部

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
原田孝司・助教 授	腎臓病と共に生きる	市民公開講座	2005年 10月1日	腎臓病の啓蒙
錦戸雅春・助手	腎臓移植について	KTNテレビ	2005年 4月22日	週間健康マガジン

○生活習慣病予防診療部

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
川崎英二・助教 授	GDMの分娩後の糖尿病発症-空腹時血糖の関与が最も強い	メディカルトリビュン	2005年 1月20日	妊娠糖尿病から糖尿病へ進展する予防因子について報告した。
川崎英二・助教 授	インスリンを始めたら	弥生	2005年 6月1日	インスリン療法に対する疑問について患者向けに解説した。

○治験管理センター

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
早田 宏・助教授	NBC報道センター, 石綿の健康被害について	NBC長崎放送	2005年 7月15日	石綿暴露による健康被害についての解説
早田 宏・助教授	KTN週刊健康マガジン, 肺癌の早期発見について	KTN テレビ長崎	2005年 12月2日	肺癌検診への啓蒙

○国際ヒバクシャ医療センター

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
	被ばく医療など報告 文部省COEプログラム 長崎大でシンポ	長崎新聞	2005年 3月8日	緊急被ばく医療
	久松、徳永両氏にナイチンゲール記章 国際赤十字	長崎新聞	2005年 5月14日	
大津留 晶・助教授, 副センター長	原発事故時に国際支援ネット 長崎大が初参加 IAEA、WHOの多国間演習	長崎新聞	2005年 5月20日	緊急被ばく医療
	ひと ナイチンゲール記章を受賞 久松シノブさん	長崎新聞	2005年 6月4日	平和学習活動
大津留 晶・助教授, 副センター長	26日から在韓被爆者健康相談 県、ソウルに医師団派遣	長崎新聞	2005年 6月7日	国際ヒバクシャ医療
	韓国・大邱病院の医師らが長崎で被爆者医療研修	長崎新聞	2005年 6月7日	国際ヒバクシャ医療
大津留 晶・助教授, 副センター長	在韓被爆者健康相談へ	長崎新聞	2005年 6月23日	国際ヒバクシャ医療
	派遣医師団がソウルで在韓被爆者の健康相談	長崎新聞	2005年 6月28日	国際ヒバクシャ医療
	約300人が相談 在韓被爆者ソウル健診	長崎新聞	2005年 7月6日	国際ヒバクシャ医療
	ナイチンゲール記章を久松、徳永さんらに授与	長崎新聞	2005年 7月9日	
	伝えたい被爆者の思い	長崎新聞	2005年 7月22日	被ばく医療
	9日に長崎大とWHO共催セミナー 放射線の「晩発影響」テーマ	長崎新聞	2005年 9月3日	被ばく医療
	「長崎の積み重ね世界へ」WHOと長崎大が被爆治療でセミナー	長崎新聞	2005年 9月10日	被ばく医療
	韓国人医師2人が被爆者医療を学ぶ	西日本新聞	2005年 10月21日	国際ヒバクシャ医療

○へき地病院再生支援・教育機構

氏名・職	記事	掲載紙誌等	掲載年月日	概要と社会との関連
調 漸・教授	医学教育支援	長崎新聞	2005年 9月14日	地域医療
調 漸・教授	医療過疎化地で総合的な 地域医療を学ぶ育成プロ グラム	長崎新聞	2005年 9月15日	自治体と連携し、保健福祉分野にも通 じた総合医を育てる試み
調 漸・教授	県北地区で若手医師育成	長崎新聞 朝日新聞 毎日新聞	2005年 11月26日	地域医療の再生を目指す、長崎大学 が本部設置
調 漸・教授	全国の若手医師を育成	長崎新聞 西日本新聞	2005年 12月20日	「臨床教育拠点、北松中央病院・平 戸市民病院」が発足地域貢献、総合 医育成狙う